

令和7年度全国学力・学習状況調査における 北九州市立尾倉中学校の結果分析と今後の取組について

教科に関する調査結果の概要

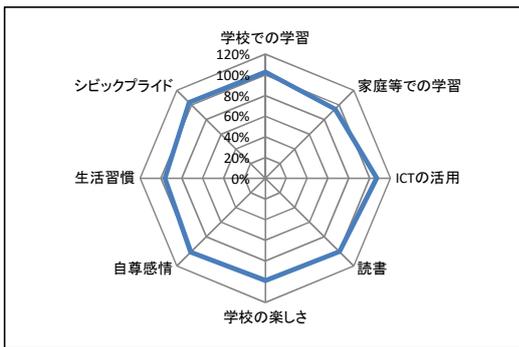
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の内容のうち、知識及び技能、思考・判断・表現等のどちらの項目において全国平均を上回る結果となった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	特に、「文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる」、「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」、について全国平均より高い結果となった。	
	努力が必要な問題	「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」、「表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」、について全国平均より低い結果となった。	
数学	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の領域、「数と式、関数、データの活用」の項目において全国平均を上回る結果となった。「図形」の分野に関しては下回る結果となった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	特に、「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」、「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」、について全国平均より高い結果となった。	
	努力が必要な問題	「証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる」、「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる」については全国平均より下回る結果となった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	学習指導要領の内容の内、「エネルギー、粒子、生命、地球」を柱とする領域において全国平均を上回る結果となった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	特に「科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる」について全国平均より高い結果となった。	
	努力が必要な問題	「塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる」については全国平均より下回る結果となった。	

学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<p>学習・生活に関する質問項目において、本校では大多数の項目で全国平均を上回っている。この結果から、本校生徒の日常生活において、望ましい学習習慣、生活習慣が確立されていることが伺える。</p> <p>○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の質問に対して、約90%の生徒が肯定的に回答している。</p> <p>○「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」の問いに対して約90%の生徒が肯定的に回答している。</p> <p>○「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」については高い回答率である。</p> <p>●一方、「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合については低い結果となった。今後、Qubena(AIT'ル)等を活用し、家庭学習の充実が図れるように啓発していく。</p>

調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

ICT機器の活用に加え、個別最適な学びの実現のためにGIGA端末の活用を仕組んだ授業計画実行をする。家庭学習が着実に進めるような宿題・課題等の計画実行をする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

GIGA端末等を利用した家庭学習の推進を行う。生活習慣の定着、改善に取り組めるよう、学校と家庭との連携を密にする。